

【問題の答えと解説】

(1) ウ

「1つの花芽の中にはあるつぼみは1つだけ」と思っておられる方も多いようですが、ソメイヨシノの1つの花芽の中には、3～5個のつぼみが入っています。花の咲くようすを思い出してみてください。ソメイヨシノの花は、枝からのびる細かい花柄(くきのようなもの)の先についていますが、花柄は何本も出ています。これが、サクラの花の特ちょうです。

(2) 夏

サクラの冬芽は、葉が十分にしげった6月ごろにはでき始めます。サクラの花の咲き方は珍しいと書きましたが、その意味は次のようになります。

花が散ったあとにたくさんの葉をつけたサクラは、夏の間にとっぴりと日光を受けて十分な量の養分を作ります。初夏には次の年の春に花をさかせるための冬芽を作り、その中に養分をたくわえ続けるのです。つまり、多くの植物は葉をつけてから花が咲くまでの時間が短いのですが、サクラはほとんど1年近くかけて次の年に花を咲かせる準備をするだけなのです。サクラの用意周到さには目を見張るものがありますね。

(3) (左から順に) ウメ, モモ, サクラ

入試において、必ず見分ける必要があるのはウメとサクラです。これは、実物を観察するのがいちばんいいのですが、ウメの花は枝に直接咲くのに対して、サクラの花には長い花柄があります。さらに、ウメはわりとスカスカした感じで枝に花をつけますが、サクラは(1)で問うたように、1か所から多くの花が房状に咲くので、花の数が非常に多くてはなやかな感じを強く受けます。また、花びらに注目すると、ウメの花びらの先は丸いですが、サクラには切れこみがあります。

なお、モモの花びらは先がとがっています。また、モモの花も花柄が短いので枝に花がついているように見えますが、花の数はウメよりも多いことで見分けることができます。